

# ゼロアップセンター アンビアン便り 1月

2010年

徒然なるままに……

新年 あけましておめでとうございます。2010年をどんな気分で迎えられたでしょうか。良い気分?それとも.....? 景色の素晴らしい3D映像映画の余韻のせいか(そればかりではないと思っている)、私はとても良い気分で迎えました。

「今日も良い日だ!」の日々の積み重ねが1年になり、10年になり、1生になればいいですね。それとも.....のほうだった方も、何はともあれ朝一に「今日も良い日だ!」続けてみませんか。とてもそんな気分になれない方、色々あってOK。ーみんなが幸せになるホ・オポノポノ・ヒューレン博士 本来の自分、“私”に還れば変わってきます。実感されている方が増えているのが嬉しいです。ご存知のように(?)、アンビアンはゼロアップリーディング&PZWをはじめ、各種セッションで気付きのサポートをしています(アンビアン便り、昨年8月号も読んで頂ければ幸いです)。

ところでお知らせです。ホームページをリニューアルしました。リコネクション&リコネクティブヒーリングやヒプノセラピー、そしてヒーリングアートと“心活き活き.....”メニューをホームページにアップ(公開)しました。料金などは今まで通りです。ホームページの詳細部分はまだ未完ですが、今しばらくお待ちください。時々のでいてみて下さいね。ありがとうございます。

<アンビアン便りは元来、文書‘お便り’です。ゼロアップリーディングのお客様には、ほぼ毎月PZWを宅急便でお届けしていますが、PZWと共にお送りする文書(月間ミニコミ誌)です。>

リニューアルの機会というより年頭にあたり、アンビアンの基本理念のひとつ『ホリスティック(統合的)な生き方』で、『ホリスティック医学』についてもう少し知って頂きたいと思います。私が生活習慣病予防指導士のはしくれとして関わっている、NPO日本ホリスティック医学協会会長、帯津良一先生のコラム・本・などから一部、以下に記させていただきます。

## ーホリスティック医学は「人間まるごと」の医学ー

~「西洋医学は修理工、代替療法は庭師」と上野圭一さんが言っておられる。修理工は壊れたところを治す技術だけでいい。庭師は育てていく。だから木に対する愛情がなければいけないし、それがまた肥料になる。体だけでなく、マインドとスピリットにも注目する。そこに気づいた人がいるだけで随分違う。さらに場のエネルギーまで思いがいくようになればさらに違う。そういう方が増えればホリスティック医学もひろがっていく。

また、体の故障の修理である医学から出られないと「治った」か「治らない」という二極化になってしまいます。命はエネルギーレベルを上げながら前進しています。そのなかで起こってきたトラブルが病です。トラブル対処も命の流れを進めながらやっていく。そこをしっかりとみていかななくてはならない。あまりに「治った」「治らない」だけにこだわると分からなくなる。病の経過も治り方も生きていくことと同じように少しずつ高めていくこと。

生命場には各物理量に応じたエネルギーが存在し、これらをひとまとめにしてポテンシャル・エネルギー（注：場が潜在的に持っていると考えられるエネルギー）と呼ぶならば、この生命場のポテンシャル・エネルギーこそ、人間まるごとということなのではないでしょうか。

さらに、その生命場は皮膚によって境された閉ざされたものではなく、外界の場につながる、というよりも外界の場を形成しています。例えば、複数の人々が集まって地域社会の場が集まって地球の場をつくり、地球の場は宇宙の場をつくりあげるといのように拡大していきます。つまり地域社会も生態系も、地球も宇宙も人間まるごとの一部なのです。

時間的にはどうでしょう。生命場は私たちがこの地球に上に生をうける前から存在し、死して肉体が滅びた後も存在しつづけるものとするならば、前世も死も死後もすべて人間まるごとは時空を超えて、そのアイデンティティを拡大していくトランスパーソナル（超個）な存在なのです。人間まるごとが、そのようにトランスパーソナルな存在だとすると、人間まるごとを対象とするホリスティック医学も当然、トランスパーソナルな存在ということになります。つまり、目の前にいる1人の人間の健康とか病気について考えるとき、その人の属する地域社会も自然環境も地球も宇宙も、はては虚空までもが対象となり、前世も死も死後にも注目することになってきます。

そして、目を内側に向けるならば、人間（固体）の生命場は臓器の場を超えて含み、臓器の場は組織の場を、組織の場は細胞の場を、というように限りなく下部の階層に向かって包み込んでいきます。つまり近代西洋医学がこれまで対象としてきた臓器以下のレベルをすべて対象としていくのです。

代替療法といい統合医学といい、いずれも 病いというステージにおける方法論の問題である。ホリスティック医学はそうはいかない。相手は人間まるごとである。病というステージに止まらず、生・老・病・死すべてのステージをつらぬく生き方の問題である。従来の医学という概念の中には到底納まりきれぬものではない。～

ゼロアップセンター アンビアン

豊中市向丘2 - 10 - 7 - 202

TEL 06 - 6854 - 8810

E-MAIL zero@anbian.jp

ホームページ <http://anbian.jp>